

KIHA 北名古屋市 国際交流協会会報

発行者 北名古屋市国際交流協会
Kitanagoya City International Association (KIHA)
〒481-8531 北名古屋役所（西庁舎4階）
TEL 0568-22-1111(内線)2400

vol.40
2021.7

わが国に在留する外国人数は、令和元年末現在で約293万人（総人口の約2.33%）に達し、日本で就労する外国人は、令和元年10月末現在で約166万人となり、それぞれ過去最多を記録しております。とりわけ、私ども愛知県には、令和2年6月末現在で、在留する外国人は、約28万人（総県民数の3.66%）となり、東京都に次ぎ全国第2位の在留外国人数の多い都道府県となっております。

わが国の急激な少子高齢化社会が進むなかで、今後にも在留外国人の増加が、確実に見込まれております。外国人を日本社会の一員として受け入れ、外国人を地域から孤立させず、多文化共生社会づくりの担い手とするためには、コミュニケーションツールである日本語を習得できるようにすることが極めて重要と考えております。地域で暮らす全ての外国人が日本社会で生活し

ていく上で必要となる日本語能力を身に付け、教育・就労・生活の場で、より円滑に意思疎通できる環境を、地域を挙げて整備していくことが重要であります。

今年度から、協会は、「生活者としての外国人」の日本語学習機会の確保を図るなど地域における日本語教育環境を強化する地域日本語教育推進事業を、文化庁及び愛知県の強力なバックアップの下にスタートさせます。

この事業の推進にあたっては、市民参加とオープンな運営を基本に、アイデア出しから企画・運営・実施まで市民主導を徹底し、「市民が主役」の国際交流の実現をめざしていきます。

この事業は、「愛知県地域日本語教育推進補助金」を財源として、実施することになりました。この補助金は、文化庁所管全額国費で、県を通じて、協会が直接受けることになりました。補助率は、2分の1以内（県（全額国庫）2分の1、市（協会）2分の1）であります。

文化庁の補助金を受け

生活者としての

外国籍市民の

地域日本語能力

のアップをめざします

この補助金は、事務管理費も対象となり、これまでの協会が取り組んできた日本語教室の運営事業は、ボランティアの費用弁償、テキスト代のみでしたので、日本語学習支援が格段に充実することになります。また、協会の厳しい財務状況の改善に大きく貢献できるものと確

信しております。

地域日本語教育推進事業として、3つの事業を実施いたします。

まず、1つ目が、「子ども日本語教室」であります。

外国籍市民の子女で、市内公立小中学校に通う児童生徒を対象に、週1回、小中学校で開講いたします。指導は、協会ボランティアが担当いたします。同時に、多文化共生プログラムを行います。学習効果を高

めるため、地域文化理解を深め、日本語学習につながる交流スタディツアーを実施いたします。

2つ目が、「多文化子育てサロン事業」であります。

未就園児を持つ外国籍市民との「ことばの交流」を推進し、優しい日本語の理解促進と子育て世代交流を図ります。年20回、児童館を運営するNPO法人に委託して実施



いたします。多文化共生プログラムとして、交流会を実施し、子育てサロンの「ことばの交流」の成果につなぎます。

3つ目が、「社会人日本語教室」であります。

外国籍市民を対象に、週1回、コミュニティセンターで開講いたします。指導は、協会ボランティアが担当いたします。多文化共生プログラムとして、学習効果を高めるため、地域文化理解を深め、日本語学習につながる交流会を実施いたします。

子ども日本語教室、社会人日本語教室は、すでに協会で行ってきた事業であります。これまでの実績のもとに、さらに工夫して取り組みます。多文化子育てサロン事業は、新規事業で、「NPO法人次世代健全育成サポートあひるっこ」とスクラムを組んで実施します。

これにより、外国人向け日本語教育支援が、未就園児、小中学校児童・生徒、それ以外の世代と切れ目なく対応できる体制が整ったこととなります。

日本語ボランティアをはじめて

を見直すために色々な人と交流するのは面白いと思いましたが、日本語ボランティアに初めて参加したときは、どのように教えていけばよいか、正しい日本語が教えられるか非常に不安でしたが、当時のリーダーであった美越さんから色々教えてもらいながら今も試行錯誤しています。美越さんは非常にリーダーシップがあり、皆を引っ張ってくれました。また、仕事に対しての考え方も教えてくださり、自分の今の仕事の心構えにもなっています。日本語ボランティアをはじめてから自分の使ってきた日本語が正しいのか確認するようになりました。受講生の方は検定試験に合格したい、仕事で会話や内容を理解したい等、目的は様々です。その質問に答えられるようにする為、こちらも勉強すればするほど、日本語の奥深さを再認識しています。今は新リーダーの清水さんと試行錯誤しながらより良い運営を作り上げています。今後とも日本語ボランティアの一員として頑張ります。

広報で募集があったのを見て「これかな」と感じました。会社と家の往復ばかりでしたので自分の考え方や視点を広げてみることにしました。この面白いと思いましたが、

広報で募集があったのを見て「これかな」と感じました。会社と家の往復ばかりでしたので自分の考え方や視点を広げてみることにしました。この面白いと思いましたが、

広報で募集があったのを見て「これかな」と感じました。会社と家の往復ばかりでしたので自分の考え方や視点を広げてみることにしました。この面白いと思いましたが、

広報で募集があったのを見て「これかな」と感じました。会社と家の往復ばかりでしたので自分の考え方や視点を広げてみることにしました。この面白いと思いましたが、

広報で募集があったのを見て「これかな」と感じました。会社と家の往復ばかりでしたので自分の考え方や視点を広げてみることにしました。この面白いと思いましたが、

広報で募集があったのを見て「これかな」と感じました。会社と家の往復ばかりでしたので自分の考え方や視点を広げてみることにしました。この面白いと思いましたが、

広報で募集があったのを見て「これかな」と感じました。会社と家の往復ばかりでしたので自分の考え方や視点を広げてみることにしました。この面白いと思いましたが、

広報で募集があったのを見て「これかな」と感じました。会社と家の往復ばかりでしたので自分の考え方や視点を広げてみることにしました。この面白いと思いましたが、

広報で募集があったのを見て「これかな」と感じました。会社と家の往復ばかりでしたので自分の考え方や視点を広げてみることにしました。この面白いと思いましたが、

広報で募集があったのを見て「これかな」と感じました。会社と家の往復ばかりでしたので自分の考え方や視点を広げてみることにしました。この面白いと思いましたが、

広報で募集があったのを見て「これかな」と感じました。会社と家の往復ばかりでしたので自分の考え方や視点を広げてみることにしました。この面白いと思いましたが、

広報で募集があったのを見て「これかな」と感じました。会社と家の往復ばかりでしたので自分の考え方や視点を広げてみることにしました。この面白いと思いましたが、



私たちの国際交流

鍛冶ヶ色 杉浦 渉

日本語ボランティアの登録をして活動し始めてもう6年位経ちますが、我ながら良くここまで続けることができたと感じています。これも国際交流協会の方や他のボランティアの皆様、受講生の方と楽しくできている事を感謝しております。私が日本語ボランティアをはじめたきっかけは2つあります。1つは、日本に働きに来ている外国の方

令和3年度事業

令和3年度の重点事業

協会は多くの人と交流し世界に繋ぐ夢と希望を掲げるため「国際交流の場づくり」、国際交流の担い手となる「人づくり」、国際交流を活用した「地域づくり」、「広報戦略拠点づくり」など、「市民が主役」となる草の根交流を推進し、北名古屋の国際交流拠点にふさわしい協会をめざす。

特に、「市民が主役」となる広報をめざして、ウェブサイトに開設した「ファクトブック（北名古屋方式）」を活用して「地域づくり」、「地域づくり」、「地域づくり」、「地域づくり」を内外に発信していくとともに、多文化共生社会づくりにつなぐ外国籍市民への地域日本語教育支援を積極的に推進していく。

令和3年度事業計画

◆国際交流の場づくり

◆第10回アジア太平洋フェスティバル

アジア太平洋諸国との交流の場として、食と文化の交流を通じて「国際理解を深めるため、市民手づくりのアイデア溢れる国際交流イベントを開催する。

◆国際交流子ども芸術教室

名古屋芸大の留学生と子どもたちの交流の場として、芸術教室を開講し、「国際理解を深め、子どもたちの国際感覚を育てる。

◆国際交流の担い手となる人づくり

◆草の根交流プログラム（派遣・受入れ）

北名古屋と友好交流先である韓国務安郡、米国グアム準州、台湾台北市大同区などとの「市民が主役」となる草の根の国際交流をめざす。東アジアでの日本を取り巻く国際環境の理解を深め、地域づくりにつなぐ。

◆外国語講座

一般市民を対象に、韓国語1コース、中国語1コース、英語2コースの3か国語4コースを健康ドームで開講する。



◆国際交流を活用した地域づくり

◆北名古屋地域ブランドプロジェクト

市民手づくりで推進する国際交流をツールとした北名古屋地域ブランド産品を開発普及して行くプロジェクトで、企画開発した「北名古屋ブランド産品」をイメージキャラクター「いっちゃん」を活用して啓発キャンペーンを実施する。

◆SDGs（持続可能な開発目標）プログラム

SDGsは、2015年に国連で採択された、2030年までに達成をめざす、貧困や気候変動など地球社会の課題解決に向けた国際社会の共通目標。地域でのSDGsへの取り組みを啓発・普及するとともに、SDGs活動を地域づくりにつないでいく。

◆多文化共生社会づくりプログラム

市民と外国籍市民との多文化共生社会づくりにつなぐ交流プログラムを地域日本語推進事業として実施する。

◆国際理解プログラム

一般市民を対象に、国際理解を深めるため、「世界を識るシリーズ」「国際交流を活用した地域づくりシリーズ」などの講演会や映画鑑賞会などを実施する。

◆国際交流を活用した広報戦略拠点づくり

◆広報戦略事業（北名古屋方式）の拠点づくり

北名古屋広報戦略プラン（外国人向け）を実現していく担い手は市民で「市民が主役」となる広報の拠点づくりのプラットフォームを協会に整備する。

◆ファクトブック（北名古屋方式）の活用

ウェブサイトに開設した「ファクトブック」を活用して、「地域のこし」、「地域づくり」、「地域づくり」、「地域づくり」を内外に発信していく。また、協会の活動や催事の紹介、各種講座の案内、会員募集、市民の草の根の国際交流活動等を紹介するホームページとしても活用する。

◆外国語支援プログラム

外国人や外国籍市民が来訪する市役所でのコミュニケーションを円滑に進めるため、案内窓口などに74か国語通訳翻訳機能機器ボートークを配置し、外国語支援する。

◆外国人生活情報サービス

地域で暮らす外国人や外国籍市民が文化習慣、言語などの違いから抱えている問題をともに考え、問題解決に導くために支援する。外国人や外国籍市民を一般市民とする生活情報サービスを提供する体制の構築をめざす。

◆フェイスブック

フェイスブックを積極的に活用して、協会活動をタイムリーに広報PRするとともに、幅広い交流ネットワークの構築をめざす。

◆会報発行

協会の活動や催事の紹介、各種講座の案内、会員募集、市民の草の根の国際交流活動等を紹介する会報を、ウェブサイト（ファクトブック）上で年3回発行する。

令和3年度地域日本語教育推進事業（特定財源）

◆事業方針

協会は、多文化共生社会の実現をめざして、生活者としての外国人の日本語学習機会の確保を図るなど地域における日本語教育環境を強化する。

なお、この事業は愛知県地域日本語推進補助金（文化庁所管補助金）を財源として実施する。

◆事業計画

◆子ども日本語教室

外国籍市民の子女で、市内公立小中学校に通う児童生徒を対象に、週1回、小中学校で開講する。

◆多文化子育てサロン事業

未就園児を持つ外国籍市民との「ことばの交流」を推進し、優しい日本語の理解促進と子育て世代交流を図る。

◆社会人日本語教室

外国籍市民を対象に、週1回、「コミュニケーション」で開講する。

◆多文化共生プログラム

地域日本語学習の効果を高めるため、地域文化理解を深め、日本語学習につなぐ多文化共生プログラムを実施する。

令和2年度事業報告

令和2年度事業報告

コロナ禍の1年であり、2回にわたる緊急事態宣言が発令されたなかであったが、対面の交流事業は、見合わせたが、オンライン会議手法を導入するなど当初計画した21事業のうち16事業を実施した。

◆国際交流の場づくり

◆国際フェア

◆国際交流の担い手となる人づくり

・社会人日本語教室 ・子ども日本語教室 ・外国語講座 ・ボランティア研修プログラム ・ボランティア登録者数

◆国際交流を活用した地域づくり

・SDGs（持続可能な開発目標）プログラム ・国際理解プログラム

◆国際交流を活用した広報戦略拠点づくり

・広報戦略事業（北名古屋方式）の拠点づくり ・北名古屋広報戦略プロジェクト（北名古屋方式） ・外国語支援プログラム ・外国人生活情報サービス ・フェイスブック

令和3年度 収支予算書

単位:円

収入の部	
負担金(会費等)	610,000
補助金	9,406,000
諸収入	961,000
繰越金	740,000
計	11,717,000
支出の部	
事務費	8,216,000
(報償費・職員手当等・共済費・賃金・旅費・交際費・需用費・備品購入費・繰出金)	
事業費	3,461,000
(報償費・旅費・需用費・役務費・委託料・負担金補助金等)	
予備費	40,000
計	11,717,000

詳しくは協会までお問い合わせください

令和3年度 地域日本語教育推進事業収支予算書

単位:円

収入の部	
補助金交付金	2,608,000
諸収入	317,000
(利子・受講料等・雑入)	
繰入金	2,826,000
計	5,751,000
支出の部	
補助対象事業費	5,217,000
(報償費・職員手当等・共済費・賃金・旅費・需用費・役務費・委託料)	
補助対象外事業費	534,000
(報償費・職員手当等・共済費・賃金・需用費)	
計	5,751,000

詳しくは協会までお問い合わせください

令和2年度 決算報告

単位:円

収入の部	
負担金(会費等)	501,000
補助金・助成金	8,870,000
諸収入	916,114
繰越金	363,637
計	10,650,751
支出の部	
事務費	7,721,338
(報償費・職員手当等・共済費・賃金・旅費・交際費・需用費・備品購入費等)	
事業費	2,188,711
(報償費・旅費・需用費・役務費・委託料・負担金補助金等)	
予備費	0
計	9,910,049

詳しくは協会までお問い合わせください

各種 申し込み お問い合わせ 等は下記までお願いします

北名古屋国際交流協会

〒481-8531 北名古屋市西之保清水田15番地 北名古屋市役所西庁舎4階

TEL 0568(22)1111

内線 2400

FAX 0568(25)1800

Eメール info@kitanagoya-kiia.jp

ファクトブック https://www.kitanagoya-factbook.jp

フェイスブック https://www.facebook.com/kitanagoyakiia